

2013年6月6日

2013 ユーロカップ・フォーミュラ・ルノー2.0 第2大会レビュー ―― 笹原右京、予選に課題を残すも、決勝はゴボウ抜き――

■大会概要

開催地：ベルギー（スパ-フランコルシャン：一周7.004km）

開催日：2013年5月31日（金）～6月2日（日）

■スパ-フランコルシャン・レビュー

6月1日（天気：曇り時々雨／路面：セミウェット、ドライ） レース1 予選 32番手

6月1日（天気：曇り時々雨／路面：セミウェット、ドライ） レース1 決勝 21位

6月2日（天気：晴れ時々曇り／路面：ドライ） レース2 予選 29番手

6月2日（天気：晴れ時々曇り／路面：ドライ） レース1 決勝 16位

今季からフォーミュラ・ルノー2.0 ALPS にフル参戦し、2レース連続8位入賞を飾った開幕大会を含め2大会を消化したユーロ・ノヴァ所属の笹原右京は現在、同シリーズでランキング10位に就けています。そして今回、笹原は6月8日（土）～9日（日）に開催されるフォーミュラ・ルノーALPS 第3大会（ベルギー・スパ-フランコルシャン）へ向けた足慣らしと、現状で彼自身がこのクラスで世界で何番目なのかを推し量るべく、フォーミュラカーレース経験者がより多く集まり競技水準もさらに高い、6月1日（土）～2日（日）のユーロカップ・フォーミュラ・ルノー2.0 第2大会（ベルギー・スパ-フランコルシャン）へスポット参戦しました。

ただし、笹原を含むALPSシリーズからのスポット参戦ドライバー4人は、競技規則に基づき5月31日（金）に設定された2回のうち練習走行1回目は出走できませんでした。未知のサーキット、しかも練習走行の機会をライバルの半分に削られて苦戦必至の状況でした。雨と霧でたびたび各セッションが中断されたこの日、笹原は雨上がりの練習走行2回目で初めてステアリングを握りました。しかし、赤旗中断の連発で少ない走行時間がさらに削がれました。また、笹原は終始ウェット路面用タイヤを装着した一方、上位ドライバーの多くは路面が乾きかけたセッション終盤にドライ路面用タイヤへ交換した事情から、39台中34番手のタイムに留まりました。

ユーロカップシリーズはALPSシリーズ同様に1大会2レース制が採用されます。もっとも、ALPSシリーズの予選は1回のみで、決勝レース1はベストタイムで、決勝レース2はセカンドベストタイムで、それぞれのスターティンググリッドが決まります。しかし、ユーロカップシリーズは2レースとも別個に予選が実施され、そのベストタイムでスターティンググリッドが決まります。なお、ユーロカップシリーズも参加台数が多いため、ALPSシリーズと同様に予選は2グループに分けて実施されました。

6月1日（土）朝に実施された決勝レース1の予選、笹原は20台が出走するグループAに割り当てられました。前日の練習走行2回目と同じような雨上がりの予選に臨んだ笹原は、微妙な路面状況ながらライバルと同様にドラ

イ路面用タイヤでアタックに出ました。セッション中盤までは 10、11 番手を争う展開でしたが、セッション終盤の自己ベストを狙える周回でクルマの姿勢を崩し、2 分 33 秒 660 の 16 番手に留まりました。19 台が出走したグループ B と総合の結果、笹原は 32 番グリッドとなりました。

6 月 1 日昼の決勝レース 1 (25 分間+1 周) は、この週末で初めてドライ路面で実施されました。笹原は得意のスタートで大きく順位を上げ、F1 グランプリなどとは違いこのレースでは第 1 コーナーとなるオー・ルージュへ果敢に進入。さらに、レース序盤の笹原は温まりきっていないタイヤで走行に苦しむライバルを次々に攻略しました。レース中盤以降は周囲のペースも上がり後続の追撃に遭いますが、ユーロカップシリーズデビュー戦を 21 位完走で終わりました。

決勝レース 2 の予選は 6 月 2 日 (日) 朝に実施されました。前日の微妙なウェット路面からこの日は完全なドライ路面に恵まれ、グループ A の笹原はトップから約 1.5 秒後れの 2 分 19 秒 042 を記録したものの 15 番手に留まりました。グループ B と総合の結果、笹原は 29 番グリッドとなりました。

2 日 (日) 昼の決勝レース 2 (25 分間+1 周)、笹原は決勝レース 1 と同様に抜群のスタートで先行車両を追い抜きますが、直後にオー・ルージュで多重衝突事故が発生してレースは赤旗中断となりました。事故車両の処理が終了すると、笹原は 22 番手からセーフティカー (SC) 先導のもとでレースを再開。ところが再び事故が発生して SC 導入と、波乱の展開は続きました。しかし、笹原は周囲の混乱に動じることなく、強豪を相手に安定したレース運びを展開。レース終盤には入賞圏内の 10 番手争い集団の直後で戦い抜き、16 位完走を果たしました。

■笹原右京のコメント

「5 月 31 日の練習走行 2 回目も、6 月 1 日の決勝レース 1 に向けた予選も、結果は満足できるものではありませんでしたが、初めてのスパ-フランコルシャンという状況を考えれば十分な手応えは得られました。決勝レース 1 は、グリッド後方なのでシグナルがほとんど見えない状況でしたが、周囲が止まっているんじゃないかというくらいにうまく反応できて、オー・ルージュまでに 5、6 台を抜きました。その後も、周囲が苦しんでいるレース序盤のうちに攻めて順位を上げました。ただ、クルマの仕上がりは満足できるものではなく、レース中盤以降は前のクルマを追いかけるよりも、後ろのクルマからの攻撃から耐える走りに終始しました」

「6 月 2 日の決勝レース 2 に向けた予選も、クルマの調子はあまりよくなくて、決勝にはセットアップを変更して臨みました。クルマはまだまだ本調子には程遠い感じでしたが、予選よりはずっと良くなりました。実際、決勝ではトップとのラップタイム差がグンと縮まりました。成績にはもちろん満足していませんが、ユーロカップシリーズへの今回のスポット参戦では手応えを得られましたし、一方で課題も発見できました。とても貴重な経験ができて、チームや関係者の皆さまには感謝しています。今後ともご支援、ご声援をよろしくお願い致します！」

